

## 平成15年度 第5回（平成15年10月17日）図書館運営協議会会議要旨

### 1. 出席者

運営協議会委員（7名）

小杉山会長・矢口委員・加藤委員・奥津委員・埜崎委員・日高委員・山本委員  
（欠席委員3名）中多副会長・三輪委員・山田委員

図書館側委員（4名）

鹿島中央図書館長・広田奉仕係長・坂井視聴覚係長・豊崎戸山図書館長

図書館事務局（3名）

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

### 2. 場所 西落合図書館会議室

### 3. 開会

#### 【小杉山会長】

ただいまから第5回図書館運営協議会を開催いたします。

本日の議題として報告事項1件と協議事項1件があります。

初めに報告事項「新宿区子ども読書活動推進計画」計画のあらまし（中間）について事務局から説明してください。

#### 【秋山管理係主査】

「新宿区子ども読書活動推進計画」計画のあらまし（中間）について説明。

計画の素案については、「広報しんじゅく」12月15日号に掲載し、パブリック・コメントを実施する予定です。

なお、本日ご欠席の中多副会長からは、ご意見を文書でいただいております。

#### 【小杉山会長】

この件について各委員からの意見をお願いします。

#### 【矢口委員】

① 「活字文化がすべてのメディアの基礎となり」という表現がありますが、映像文化や活字にならない口承などもメディアの基礎となります。

- ② 「子どもの読書活動の意義」の文言は、法律の条文や東京都の推進計画から引用していますか。
- ③ 「人生をより深く生きる」という表現がありますが、「より豊かに生きる」ならありますが。
- ④ 「読書活動の意義」の所で「創造力」とありますが、「想像力」の方が適切では。
- ⑤ 障害をもっている子どもたちへのサービスはどうなっていますか。
- ⑥ 移動図書館については検討していますか。

**【鹿島委員】**

- ① 全体の文章の中で整理します。（すべてのメディア→多くのメディア）
- ②～④「子どもの読書活動の推進に関する法律」の趣旨を踏まえて計画を策定しております。②～④は法律の基本理念から引用しています。
- ⑤ 障害をもっている子どもたちへのサービスについては、現在行っている障害者サービスの充実として検討いたします。
- ⑥ 移動図書館は基本的には過疎地を想定しており、新宿区では考えていません。

**【山本委員】**

「計画の性格」の所で「新宿区の状況を踏まえて」とありますが、何の状況を踏まえているのですか。

**【鹿島委員】**

今年度、教育委員会事務局で実施した「児童・生徒の読書の状況に関する調査」の中で小・中学校の読書活動に関する調査や計画策定に合わせて実施した子ども読書への取り組み実態調査、更に公共図書館の登録率など現状を踏まえてということです。

**【矢口委員】**

新規事業で「外国語でのお話会の実施検討」、「病院サービスの実施検討」とありますが、これは基本的に実施するのか検討だけで終わってしまうのか、不明確では。

**【鹿島委員】**

「外国語でのお話会」を実施するためには、ネイティブスピーカーである外国人ボランティア等人材の確保が必要であり、文化・国際交流財団等と連携し、試行を行いたいと考えています。

「入院中の子どもたちに対するサービス」については、感染症対策上の問題がないかどうか、また、利用者に広く貸し出されている本を病院に持ち込むことについて一定のルールづくりが医療機関との間で必要です。

#### 【佐藤管理係長】

新宿養護学校では、「院内教室」を区内の高度医療機関で実施しています。衛生面で教科書以外の工作物の持ち込み制限があります。

#### 【小杉山会長】

- ① 「民間専門学校等との交流」とあるが、民間団体は幅広くとらえて欲しい。たとえば銀行・病院・デパートなどでも親子が一緒にいることが多い。こうした所への協力はできませんか。
- ② 「子ども図書館の設置検討」とあるが、どのような視点で考えていますか。学校図書館との関わり、国や都との関わりは。身近なことを重点的にやって欲しい。

#### 【鹿島委員】

- ① 民間団体との交流で、幅の広さ、接点を多くとることは大切です。啓発していきます。
- ② 「子ども図書館」は、既存の施設（中央図書館児童室）の活用を考えています。これにより、児童に関する事業を集約する機能をもたせることができます。

#### 【奥津委員】

- ① 「子ども図書館」を独立させる利点は何ですか。現在の児童室と異なる点は。本から受ける子どもの影響は大きい。親が読んで欲しい、子どもが安心して読める良書に囲まれた特徴ある図書館であってほしい。
- ② 図書館で行う映画会はどのような基準で選択していますか。

#### 【坂井委員】

映画会は、娯楽性だけでなく、図書館で上映するのに相応しい教育的・文化的価値のあるものや受賞作品などです。

### 【鹿島委員】

基本図書（児童室の蔵書の核となる本・常に置いときたい本）は、昭和60年から平成8年まで約850冊選定が終わっています。平成9年以降検討分の見直しとともに、本年度は平成12年出版分を対象としています。今後も選定作業を行っていきます。

### 【桧崎委員】

- ①「新1年生への利用者登録」とありますが、いままではどうだったのですか。
- ② また、1年生に図書館を見学してもらいたい。

### 【広田委員】

- ① 新1年生に向けた図書館PRとして、図書館の案内と本の紹介を配っていました。登録カードは配っていません。
- ② 各学校、各クラス毎、先生により対応しています。

社会科見学、総合学習、職場体験学習という形で各図書館を見学なさっています。おいでになった段階で、登録していない児童・生徒に登録カードを渡しています。

### 【小杉山会長】

これにて報告事項は終了いたします。

次に協議事項「区立図書館の理念・役割」について、本日の資料について事務局から説明してください。

### 【佐藤管理係長】

本日の資料は、「公共図書館におけるビジネス支援サービス」についてです。また、新宿区立産業会館（B I Z新宿）等のパンフレットをお配りしました。

### 【鹿島委員】

B I Z新宿との連携も含めて新宿区の資源を活用し、役割分担を検討する必要があります。

角筈図書館では、一般図書の他にビジネス書購入のため年間100万円計上していますが、会社の年鑑等ビジネス関係の本は高価なものが多く、区立図書館としてどこまで対応すべきか難しいところです。

### 【佐藤管理係長】

ビジネス支援にはデータベースが必要ですが、相当費用もかかるので、図書館に備えつけるのが妥当か議論のあるところです。

新宿区内の産業では圧倒的に飲食店が多いのですが、例えばラーメン屋を開業しようとする方がいる時、開業手続きに関する情報を充実させるのか、あるいは新しいビジネスを育てるためのデータを揃えるべきなのか、新宿区がどの方向を目指すかで変わってきます。ビジネス支援のあり方として、多様な切り口があります。

ニューヨークの科学産業ビジネス図書館には、ビジネスコンサルタントがボランティアで利用者をサポートしています。ビジネスコンサルタントは経営あるいは経済学に対して広範な知識を持っています。今の日本の公立図書館でボランティアのビジネスコンサルタントを探し当てることは難しいのが現状です。

#### 【矢口委員】

財団法人・女性労働協会の運営する「女性と仕事の未来館」という施設がありますが、学生等がここを利用しようとする時、求めるものは2種類あります。一つは一般的な仕事の方向性を探るもの。もう一つは具体的に必要な手続きについてです。

未来館では利用者の相談に応じる体制もとっています。

#### 【佐藤管理係長】

何をするにはどこへ行けばいいかを、具体的に示す水先案内人的な役割が図書館におけるビジネス支援のあり方だろうと思います。

#### 【鹿島委員】

お配りいたしました資料中の札幌市中央図書館におけるビジネス支援、このようなレファレンス・サービス体制を整備すれば相当強力なツールになります。

#### 【小杉山会長】

毎年毎年、ビジネス支援のための資料購入に多額の費用をかけるのは妥当なのでしょうか。

#### 【鹿島委員】

最新の資料を揃えるには相当の費用がかかります。区立図書館でどこまでやるべきかは検討する必要があります。

#### 【佐藤管理係長】

B I Z 新宿の建設には区立小学校の跡地を利用し、区としては経費はかかっていません。創業支援は女性起業も含めて事業として立ち上げています。

**【矢口委員】**

ビジネス支援ライブラリーのパンフレットには、商工会議所と都の両方のマークが入っていますが、どういう形態なのでしょう。

**【広田委員】**

東京都が平成14年6月に開館しました。場所は商工会議所の中にあります。起業意欲の高揚を図るため都が作ったものです。インターネットが自由に利用できるのが特徴です。

**【佐藤管理係長】**

B I Z 新宿の4階に商工課の事務所と商工会議所新宿支部も入っていますが、ライブラリーのデータはここで読み取ることはできません。

**【鹿島委員】**

ビジネス支援は先進的な取り組みをしている図書館においても、まだ、試行錯誤で行っています。今回も参考資料をお配りしましたが、皆さんが読まれた感想をお聞かせ頂ければありがたいのですが。

**【加藤委員】**

ビジネス支援はどのような方向を目指すのかを明確にしていきたい。また、ビジネス支援以外にも多くの課題がある中で、どれを優先すべきか考える必要があります。

**【佐藤管理係長】**

区立図書館の利用者は区民が約6割、区外の方が約4割です。新宿区は多様な人を受け入れる素地があります。図書館としてはオールラウンドの方向性を保つべきです。優先順位は、その時々的情勢によって変わってくるものです。

**【山本委員】**

先日、六本木ヒルズの図書館に行ってきました。

20～30代の人が多く、満席でした。資格を取るために勉強している人が多いようです。ここでは高額の会費を払うと24時間利用できます。公共図書館でも夜遅くまで利用できるようにしていただきたい。

**【鹿島委員】**

公共図書館でも一定の内容については有料サービスも検討すべきではないか、有料データベースの利用などについては対価をとることも選択肢に含めていいのではないのでしょうか。

ビジネス支援については今回だけではなく、また改めて議論する機会を持ちたいと考えています。

**【佐藤係長】**

独立行政法人の経済産業研究所のほうが文部科学省よりビジネス支援に熱心であるのが現状です。

**【小杉山会長】**

新宿区でも女性の起業のための資料を充実させていただきたい。

**【矢口委員】**

女性の起業については横浜市の「女性フォーラム」も、参考になると思います。

**【小杉山会長】**

「区立図書館の理念・役割」については、引き続き協議事項といたします。本日の図書館運営協議会はこれで終了いたします。

**4. 西落合図書館の視察**

運営協議会終了後、西落合図書館の視察を行いました。